



大学職員のためのレポート作成指導法講座

戸田山和久（名古屋大学・情報科学研究科）

●1 文章技術を磨くことは倫理の問題でもあることを理解してもらう

転換試験棟では、作業手順書が存在しないままに操業が実行されたり、実際の手順の変更の実施後かなり経ってから手順書の改訂を行ったりすることが常態化していた。記述内容は、それを読めば作業未経験者が実際の作業を実行できるものにはなっていないし、臨界安全管理上の注意等の記述もないし、臨界がどのように防止されているかなどの意味的情報が欠けている。（日本原子力学会JCO事故調査委員会『JCO臨界事故 その全貌の解明』2005 p.218）

●2 「作文」についての学生の先入見をまずは壊す

2-1 日本の初等・中等教育における作文指導への疑問

（1）自分の思いを思ったままに書くことが作文なのか？

読書感想文とbook reportの違い

読書感想文と書評の違い

読書感想文には相手と目的が指定されていない

文章の一次的な目的と二次的な目的

- ・一次的な目的 例）実験結果の報告
- ・二次的な目的 例）よい成績・文章修行

読書感想文や「小論文」には一次的な目的がなく二次的な目的だけがある

その結果、よくありがちな文章

・戦後の日本では、学生は社会を動かそうとする意欲をもち、積極的に行動していたことがわかる。その風潮はだんだん薄れ、果たして現在ではどうなっているだろうか。今一度、大学とは何か・何のために学ぶのかを学生たち自身が考え、自分たちがこれからの社会を担っていくのだという意識をもたねばならない。

・課題は「授業を受けていない人にも授業内容がわかるように報告する文章を書け」というものなので、あなたの決意表明を混入させてはいけません。あなたは、高校生にありがちな「前向きな感想を書いておけばいい点もらえるだろう症候群」にかかっています。

●3 文章設計という考え方をつかんでもらう

3-1 よい文章についての一般論

（1）すべての文章には、目的と相手がある

（2）おとなは「自分の思いを書く」というようなことはほとんどしない

論じる／書評する／解説する／研究費を申請する／依頼する／依頼を断る／スケジュールを合わせる／道案内する／抗議する／苦情を言う／挨拶する／窮状を訴える／言い訳をする／失礼をわびる／苦言を呈する／誤解を解く／和ませる／評価する／疑問を解消する

（3）ようするに、おとなは何らかの目的のために文章を書く

（4）よい文章とは？

- ・文章には必ず、相手と目的がある。相手は誰か、その相手に何をしてもらいたいのか。
- ・どのように書けば、その相手に～～をしてもらいたい、という目的をうまく果たせるのか
- ・目的をうまく果たせる文章が「よい文章」
- ・書き方は、相手と目的によって異なる。いくつもの文体を使い分けられるのが文章の達人

（5）文章を書く究極目標は「生き延びること」 例）足利事件と菅家利和さんの手紙（94年5月13日）

地元の皆さんこんにちは、私は菅家利和と申します。足利事件で私は犯人にされてしまいました。私は警察の見込み捜査で突然逮捕されました。事件は平成2年5月12日午後7時頃おきました。そして私は平成3年12月1日の朝、私は借家から刑事にいきなり警察へ連行されました。そして12月1日朝から夜おそくま

で調べられました。

1日の日に刑事に「お前がやったんだな」と私にゆうのです。それで私はやっていないと話しましたが、刑事はまったくうけつけませんでした。そして刑事がお前は現場に行っているんだよとゆうのです。しかし私は現場には行っていないのです。刑事に私は現場には、行っていませんと話しました。それでも刑事はまったく受けつけません。

そしてまた刑事が、お前がやったはずだとまた私を責めたてなのです。私は行っていませんと何度も何度も刑事に話すのですが、それでもまったく受け付けられませんでした。時間が進むにつれて、刑事の声がだんだんと大きくなるのです。そして刑事が机をたたいたりして、早くしゃべって楽になれと言うのです。

それから私が下をむいた時、刑事に私はかみの毛をひばられました。私は刑事に机をたたかれたり、大きな声でいわれたり、だんだん刑事がこわくなり、疲れと、眠さで私はもうつかれてしまい、やっていない事件をやったと言えば休ませてくれると思い、それで私はやったと言ってしまいました。それで私は夜おそくなって逮捕されました。

地元の皆さん、どうか信じて下さい。私は足利事件には無関係なのです。私は控訴審の裁判に頑張りますので、どうか私を見守っていて下さい。地元（足利市）の皆さん、どうか傍聴にきて下さい。この足利事件はDNA鑑定で、多くの疑問点があります。私は罪をおかしていないのに、犯人にされたことです。だからDNA鑑定はおかしいのです。

支える会・栃木の皆さんによりしくおつたえ下さい。俺は控訴の裁判で無罪になって早く家に帰りたい。皆に早く会いたい。罪をおかしていないのだからぜったい無罪になって、お袋や皆に安心してもらいたい。早く真犯人が逮捕されるように。俺は真犯人がにくい。真犯人をぜったいゆるさない。おくれてすみません。皆さんもお元気で、利和も元気に頑張ります。 利和より

(6) 最初から日本の作文教育がおかしかったわけではない

前文大略諸先日は尊老之御周旋を以て内約漸く相整ひ千射萬謝仕候 然る処此頃仄に路人の言を聞くに当人の言語挙動甚だあらあらしく且性質も亦柔和ならざる由 就而は乍御気毒一応御断り被下度此段偏に奉希候不乙 追而当人之気性も相変り品行も亦正しく相成候へば早速婚礼可致候

3-2 文章の目的を意識させる取り組み

(1) レポートを課すときには必ず目的と対象を明示する。「授業を受けて考えたことを書く」は最低。

例) 今日をふくめて、戸田山担当の3回分の授業について、その内容を客観的に、授業を受けなかった人（自分の高校の後輩の3年生を想定）が読んでわかるような形で報告する文章を作成する。感想を書いてはいけない。

- ・何か書いておけばよい、としないこと
- ・評価軸が明確になるように目的を明確化する

(2) 実用文書を書かせて添削する

例) 【インタビューを頼むダメ・メールの例】はじめまして。情報文化学部自然情報学科1年のXXXです。専門科目の戸田山先生の授業の課題で、先生方にインタビューをすることになりました。インタビューの質問内容は、

1. どんな研究をやっているのか、なぜその研究に関心を持つようになったのか
 2. 大学はどういうところだと思うか、自分が大学新入生だったときにどんなことを考えていたのか
 3. 大学新入生に推薦する3冊の本
- を予定しています。

インタビューを引き受けていただけませんか？お忙しいと思いますが、よろしくお願いします。お返事は、以下のアドレスをお願いします。XXXX@XXX.ne.jp

3-3 文章の相手を意識させる取り組み

(1) 学生同士が文章を評価するワーク

回答例) 真ん中に大きく、ひと言で言えば宇宙人とかエイリアンみたいなかわいい生き物（意味不明で芸術的）

生き物の特徴) 二頭身くらいで、頭はまるい、頭でっかち。眼は白い丸の中に黒い点が一つ。眼はけっこう寄り眼。ちゃんと両目ある。鼻はカクツとしていて高い。アメリカ人っぽい鼻。左向きにとんがっている。口は小さめでにっこりほほえんでいる。

鼻筋がそのまま右目の上を眉毛のように通り越して右ほっぺのほうへ下に下がっていく。顎を通り越したら、右にカクツと突き出して左に戻る（体の中心部までのぼす）

顔の横には、すごく大きな耳のようなものがついていて、耳の上の先ちょはとがっている。耳は顎のあたりを通り越して、体の真ん中あたりまで来ている（体は貫通しない）。

体はかまぼこを上下に引き延ばしたような（楕円形の半円のような）形で、半円の円の方が上に来る。左足はまっすぐに立っていて、体のすみじやなく中心あたりから生えてる。右足は足の付け根のしわみたいなどころから、右向きに直角に生えてる。長ズボンをはいたみたいの幅の細い足で、ブーツみたいなくつ。体の左下の角から、上下につぶれたしずくのような形のものがひとつぶ垂れていて、しずくには顔がある。目は丸い白目で小さくて、口は大きくてにこっとほほえんでいる。

手はない。おでこが広くて、顔のパーツは顔の中心の下の方へ寄っている。体の真下にローマ字で、ケー（大文字）、シー（小文字）、エイチ（小文字）のサインが右下に小さく書かれている。

・このワークで考えざるをえないこと

- (1) 文章の目的は何か
- (2) 文章の相手は誰か
- (3) その相手はどういう人か
- (4) 相手は何を知っているのか（共通知識）
- (5) 相手は何を知らないのか（知識の非対称性）
- (6) どのような知識を補えば相手に目的のことをしてもらえるか
- (7) 相手がその知識をどのような仕方で獲得すれば、その知識をうまく伝えることができるか

3-4 作文は設計と似ている

- ・読み手（＝ユーザ）と目的が所与
 - ・その目的をうまく果たす「機能する人工物（文書）」を設計し
 - ・文字数の制限、メディアによる制限などをトレードオフして、
 - ・読み手の感覚（読み心地、わかった感じ）をも考慮して実現する
- 作文と設計って同じじゃん！→文書設計

●4 論文とは何かを、相手と目的という観点から理解させる

(1) 論文というジャンルの目的と相手は

目的 自分の見いだした知見や見解を不特定多数の相手に説得する。（たんに「述べる」のではない）

相手 peerである。つまり、①その分野についての基礎的知識を持ち、②批判的に読む能力があるが、③説得されればその知見を受け入れる用意がある程度にはopen-mindな、多数の人々

(2) 論文の目的が定まれば、何をしなければならないか、どのような形式がそれに適しているかが決まる
陳腐なことを書いてはいけない。相手は知識を持っており、新見を求めている

自分の知見や見解に対して、証拠立てて論証しなければならない

相手は批判的に読む能力があるpeerなので、その論証は、①相手が自分だけで再検証可能であること、②相手のツッコミを予想し防御されたものである必要がある

(3) 何をしなければならないかが決まると評価軸が定まる

新奇性 説得性 検証可能性（典拠・実験方法）

●5 必ずちゃんとした評価をし、添削して返却する（言うは易く…）

(1) 評価基準はあらかじめ明示しておく

例) 授業の内容とメッセージが正確に把握されまとめられているか。授業のキーワードが正しく理解され使われているか。授業を受けていない人が読んで授業内容を理解できるか。誤字脱字がないか。日本語として適切な文になっているか。

(2) 「正解」ないし「模範」のある課題を与えるべき。そうでないと、「良く書けている」のように評価が恣意的・趣味的になる

(3) コメントの雛形をつくっておき、メールで提出させて返信すると100名までは対応可能

【実例】

●授業の内容まとめ：

以下に見るように、授業内容が理解できていないところが多々あります。

●文章表現：

あなたは日本語の語彙が少ないと思われます。語彙が足りないので、言いたいことがうまく言えず、ハンドアウトにある表現を適当につないだ箇所が目立ちました。その結果、使いこなせない言葉をつないだことにより、文が日本語としておかしくなってしまった箇所もあります。本を読む、授業で出てきた耳慣れない言葉をチェックするなどして、自由に使える言葉の数を意識して増やすようにつとめるとよいと思います。文章はたくさん書かないとうまくなりませんので、練習アルのみ！ 大学はまともな文章を書けるようになるおそらく最後のチャンスですから、現代教養論の2回目に配布した「Academic writingの掟」を読み直してがんばってください

●以下のような改善点がありました。

(1) 啓蒙主義とは、「くらきをひらくこと」。→まず、「くらきをひらくこと」は啓蒙の説明であって、啓蒙主義の説明ではありません。また、体言止めは、マスコミ文体ではよく見かけますが、論文やレポートなどの大学でのアカデミックな文章では使わない方がよいです。かえって格好悪いです。

というわけで、「啓蒙とは、くらきをひらくことである。」とすべきです。

(2) この人々、民衆を賢くしていかなければならないという考えが広まっていった。→「この」が何を指すのか、どこにかかるのか(人々、考えどっち?)、ともにわかりません。「人々」と「民衆」が並列されているのか、「この人々」がどこにつながるのかもわかりません。ようするに意味不明です。

(3) 日本にはこの啓蒙主義が明治の初め、自由民権運動の時に入り、受け入れられてくる。→「自由民権運動の時」ってどういうことなのかわかりません。「入り」も幼稚な言い回しです。

日本にはこの啓蒙主義が、明治の初め、自由民権運動が華やかなりし時に輸入され、受け入れられた。

日本にはこの啓蒙主義が、明治の初め、自由民権運動家たちによって輸入され、受け入れられた。

(4) 立身出世主義(頭良くないと いい仕事に入れませんよ)という形をとって勉強、勉強というようになる。→「仕事に入る」とは言いません。語彙不足です。「仕事に就く」です。

(5) しかし、日本での啓蒙の形が変わっていった。→「啓蒙の形」はヘンです。「しかし、日本では啓蒙の性格が変わっていった。」

(6) 修養主義とは事故をよく理解し、人格を完成させようとする考え方である。→自己

(7) どうやって自分を磨くか、と考えたときにありついたのが、→こういうとき「ありつく」とは言いません。「たどり着いたのが」でしょう。

(8) どうやって自分を磨くか、と考えたときにありついたのが、古今のすぐれた文学を読んで人格を完成させようという考えと、自分たちより俗世間を低く見て自分たちが超越しているんだと考えるに至ったからである。→「という考えと」がつながるところがないので日本語の文としておかしいです。

どうやって自分を磨くか、と考えたときにたどりついたのが、古今のすぐれた文学を読んで人格を完成させようという考えだった。こうした内向きの教養主義は、俗世間を低く見て自分たちがそれを超越しているという考えにつながった。

(9) そしてそのしっぺ返しを戦争で食らうことになるのが戦争である。→「戦争で食らうことになるのが戦争」????そしてそのしっぺ返しを食らうことになるのが戦争である。

(以下略)

●評価

満点は25点です

20点を基礎点として加点と減点で採点します

あなたの今回の課題は

20-20=0点です

うーん。これはちょっと。この点ではイヤだ!と思うなら、8月21日までに、書き直しの上再提出を認めます(指摘したところだけ直してあってもダメよ。全体的に読みやすく正確に直してください)

●6 Academic Writing の掟を明示し、それを堅持する

◆1 年次の最初に配布している「Academic Writingの掟」

(京都女子大の江口聡さんのwebsiteを参考にして、作成したものです。学生にはそのことを明示しています。もし、ここから引用する際には、<http://melisande.cs.kyoto-wu.ac.jp/eguchi/>にあたって、オリジナルの文章を確認の上、江口氏へのacknowledgementを必ずお願いします)

1 基本的な心構え

(1) 大学でレポート・論文を課すのは、あなたの感想や「オリジナルなアイディア」を知りたいからではない。ちゃんと調べることができるのか、調べたことをきちんとまとめられるのか、授業内容をちゃんと理解したか、それをまともな日本語で表現できるのかなどを確認することを目的にしている。

(2) ちゃんと調べをして、型にはまった文章、レポートの形式を守ったものが書けるようになる。これが学生時代に目標とするべきこと。型を踏まえた文章が書けない人には、オリジナリティも個性もへったくれない。誰も、たいした調査もしていないで書かれたあなたの考えや単なる感想に興味はない。もちろん自分の解釈や見解を述べるのは重要だが、その場合は十分な論拠を示さなければならない。

(3) なるほど正論だが、ほとんど何も考えなくても書けるようなことを書いてはいけぬ。たとえば、「日本も市民と政治の隔たりを解消するための施策を打ち出していくべきである」とか「私たち一人一人が年金制度のあるべき姿について考えていかねばならない」とか。これって、正しいけど当たり前でしょ。

(4) レポートの課題で求められているものは何なのかを正しく理解して、それに応えること。本を読んで調べたことを報告せよと言われているのに、感想を書いたり、とにかく課題と無関係のことを書いてはいけぬ。

(5) 書きかけのレポートや草稿を誰かに読んでもらうのはお勧め。

(6) 作文がヘタな人は、語彙が足りない。意識して語彙を増やそう。英単語知らなきゃ英語で文章書けないのと同じで、日本語でも自在に使える語を意識して増やさなければ、まともな文章を書けるようにはならない。日本に生きてりゃ日本語できるようになると思ったら大間違い。語彙の少なさを自覚している永沢と藤木はえらい！ ジョージ・オーウェル (George Orwell: 1903-1950) の小説『1984年』(1949) は陰鬱な未来世界を描いている。この作品で描かれる社会は究極の管理社会である。イングソックと呼ばれる監視国家に暮らす人々は、余計なこと、とりわけ反体制的なこと、「異端の思想」を考えないように、新しく考案された人工言語Newspeakを使わされている。たとえば、freeという語は、「この犬はシラミからfreeである」という用法しかない。Honor, justice, internationalism, science, Democracyといった語彙は消去され、代わりにcrimethinkやoldthinkという語にまとめられてしまった。ここに見られるのは、ものごとを疑ってかかること、精密に考えようとするのは危険なことだ、という考え方だ。

現実にも、人々は徐々にnewspeakをしゃべるようになってきている。たとえば「むかつく」とか「感動」という語がそうだ。気に入ったり気に入らなかったりということはある。そのとき、なるべく精密にどこがどんな風に気に入ったのかを述べようとする、議論することを放棄すると、人々は自分からnewspeakに陥っていく。

残念なことに、我々の世界では、「政治的リーダー」とされる人々が率先してnewspeakを語る。精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙は、われわれが精神の自由を獲得するために、前世代かがわれわれに託した貴重な贈り物なのにもかかわらず。子どもにホワイトハウスはどんなところかを聞かれて、「…白いよ」と答えた某国大統領がいたことを思い出す。

2 常識としてまもるべきポイント

(1) 必ずstapler (ホッチキス) でとめる。クリップはダメ。バラバラになることがある。バラバラになって誰のだか分からなくなったら本人の責任だ。

(2) 各ページに番号を打つ。

(3) 表紙をつけて、科目名、学部学科、学生番号、氏名を明記する。学生番号だけで学部・学科を書いていないと、採点表に記入するときタイヘンなのよ。

(4) 「だ/である」体で書く。しかし、文末に「～である」が連続すると非常に読みづらい上に、大げさで滑稽な感じがする。文末はうまく散らすこと。

(5) とにかく一文一文を短くし、簡潔な文章にする。文章が苦手な人は、一つの文が長くなる傾向がある。一つの文でいろんなことをいっぺんに言おうとして、文がぐじゃぐじゃになる。これだけの内容を一つの文に破綻なく表現することは自分の現在の文章力では無理だと自覚して、いくつかの短い文に分割して表

現する。

(6) 「～だが、～」とか「～であり、～であり、～であり～」というつなぎ方は文を止めどもなく長くするのでダメ。それぞれ「～である。しかし～」、「～である。また～である。さらに～である。」とする。

(7) 体言止めはしない。格好悪いぞ。

(8) 書き出しと文の終わりが対応していない文（ねじれ文）を避ける。対応がとれているかを常にチェックする。たとえば、「なぜなら」で始まったら「だからである」で終わる。「○○とは」で始めたら「～のことである」か「～のことを意味する」で終わらないとおかしい。「その理由としては」で始めたら「～ということが指摘できる」とか「～ということが考えられる」などで終わらなければならない。

(9) 主語と述語が対応するよう気をつける。主語だけあって述語がないとか、その逆になっていないかをチェックする。たとえば、「私たちはたいいていの人が図が分かりやすいと思う」は「私たち」「たいいていの人」「図が」と3つ主語があるのに、述語は「分かりやすい」「思う」の2つしかないので、意味不明になっている。

(10) 口語と文語の違いに気を配る。口語は使わない。たとえば、接続詞として「なので、」からはじまる文はダメ。

(11) 専門用語の定義については、国語辞典（広辞苑とか）は信用できない。せめて百科事典や入門書・専門書等を参照する。

(12) 適切に段落分けをする。内容の塊ごとに段落分けする。一文ごとに改行してよいのは携帯メールだけ。

(13) 必ず読み直して誤字脱字がないか確認してから提出する。

3 細かな文章作法

(1) 日本語の文章中で使ってはいけない記号。〈 〉（山括弧），“ ”（引用符）などは使ってはいけない。括弧としては「 」を使う。その他、「＝」「←」「※」などの記号は、自分用のメモや授業用の資料ならともかく、人に読ませる文章中では使わない。言葉で表現する。

(2) 「」（カギ括弧）の使い方。「」を濫用しない。「」を使うのは、(1) 他の人の発言や書物の中の言葉を引用するとき、(2) 言葉そのものについて話をするとき、(3) 普通とは異なる意味で言葉を使うとき、の3つだけ。これ以外は「」の使用を控えるのが、わかりやすい文章を書くコツ。何となく強調のために「」を使ってはいけない。二重カギ括弧『 』は、(1) 書名・映画名などの作品名、(2) 「」の中でもういちどカッコをつかいたいとき、に限って使う。

(3) 名詞・形容詞・動詞・形容動詞以外にやたらと漢字を使わない。「全て」「～の為」「～の様に」「出来る」「何故」などはダメ。

(4) 段落の冒頭は必ず1字分下げること。

(5) 人名の表記法。①超有名な人は、「プラトン」「ニュートン」「シェークスピア」などでよし。②それほどでもない人は、最初に出てくるときにはフルネーム。「ラミス」ではなく「ダグラス・ラミス」と書く。二回目からは「ラミス」でよし。「氏」とかはいらない。人名を間違えるのは致命的に格好悪い。かつてあった例としては「スタンリー・キューブリック」という映画監督の名前を「スタンブリーキュービク」としたものがあった。恥ずかしい。

(6) メールでレポートを提出するときには、機種依存文字に注意。「①」などの丸数字、「Ⅲ」などのローマ数字等々は機種依存文字と言われる。OSによって、割り当てているコードが異なる文字のこと。自分のパソコンのOSと相手のパソコンのOSが異なると正しく表示されなくなってしまう。ウィンドウズユーザーがメールで「①」を使うと、Macでは、「(日)」という意味不明の文字に化ける。メールでのコミュニケーションでは使ってはならない。機種依存文字については<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley-SanJose/5148/moji/>などのサイトが参考になる。

(7) アラビア数字、欧文文字は半角文字。1 2 3 4 a b c d はダメ。1234 abcdで。

4 文章ヘタ夫くんの使いがちな表現ベスト10 これを避けるだけで文章がうまそうに見える

(1) 「ここでレポートを終わりにする」「以上で終わりとする」。結婚式のスピーチじゃないんだから。

(2) 「ここで、「スキーマ」という単語の意味がわからなかったので、調べてみたら、」。言葉の意味を調べるのは大変結構なのだが、調べましたよということまでレポート中に書く必要はない。「ここで言う「スキーマ」とは、」という具合に調べた結果だけ書けばよい。

(3) 「次に○○について見る」。典型的なヘタ夫表現。○○について「批判的に検討する」のか「簡潔に紹介する」のか「背景を遡る」のか、自分でも何を書くつもりなのかわかっていないので「見る」とか「見

ていく」といった曖昧な表現でごまかす。そういう魂胆は教員にはお見通しなのだ。

(4) 「ここで〇〇について考えてみる」。いきなり「ここで」と言われても、前に書いてあったこととどういう繋がりがあるのか分からず読者はとまどう。「ここで～する」というのは、文章をどう繋いでよいか分からなくなった人が逃げ道として使いたがる表現なので、これを多用すると、文章がヘタに見える。ついでに言うと、「考えてみる」は(3)と同様に、避けるべき表現。

(5) 「(幼稚な指摘かもしれないが)」のようなセルフ・ツッコミは見苦しい。自分の考えが幼稚かもしれないと思ったら、もう少し、調べて考えを深めればよいだけのことだ。だいいち、()をあまり使ってはいけない。

(5) 「何をするかどうかに左右される」。「どうか」は余計。「相手が何をするかに左右される」。

(6) 「倫理感」「価値感」。これ、ハゲシク頭の悪い印象を与える表現。正しくは「倫理観」「価値観」。あなたにとって、倫理って「感じ」の問題でしかないのね、と思われてしまう。

(7) 「〇〇について検証する」。検証というのは、仮説が正しいかどうかを実験や調査を通じて確かめる、という意味なので、ただ単に「～について詳しく調べてみる」という意味で使うのはヘン。

(8) 自分のことを「生徒」、大学を「学校」と呼ぶ。明治時代ならいざ知らず、現代では「生徒」は高校生までを指す言葉である。大学では「学生」と言う。最近、大学を「学校」、自分たちのことを「生徒」と呼ぶ学生が増えており、教育学の人たちは、これは学生の幼稚化の現れだとして「学生の生徒化現象」と呼んでいる。

(9) 幼稚語。「細胞がホルモンを出す」「授業で大学史をやる」「すごく」のたぐい。「出す」だったら「分泌する」「公布する」「宣言する」「派遣する」「発射する」「出資する」「投資する」「発表する」などに書き分けるべし。ということは、語彙を増やさねばならないというこっちゃ。

(10) 「～であるのである」。大昔の政治家の演説のようで滑稽。

5 引用の作法

(1) 他の人が書いた文章を引用するときは、必ず①カギ括弧「 」で括るか、②段落をあらためて、一字分左端を引っ込めて(カギ括弧はいらない)、引用であることを明示する。さらに、どこからその文章をとってきたかを()内に示すか、注で示す。②は次のような具合。

最後に、哲学のさまざまな教説ならびに論証の誤った諸規則からも、人間のこころに入り込んだ「イドラ」があり、これを我々は「劇場のイドラ」と名づける。なぜならば、哲学説が受け入れられ見いだされた数だけ、架空的で舞台的な世界を作り出すお芝居が、生み出され演ぜられたと我々は考えるからである。(フランシス・ベーコン『ノヴム・オルガヌム』岩波文庫、pp. 84-86)

(2) ページ数は「173頁」とか「p. 173」と表記する。引用箇所が複数ページにわたる場合は「pp. 45-46」と書く。「p.」のうしろのピリオドを忘れてはいけない。

(3) 引用文は原則として一字一句正確に、かなづかいや文字遣いも引用元にあわせる。こちらで好きなように省略したり要約してはいけない。やむを得ず一部を省略したときは(中略)と書く。

(4) レポートや論文には文献リストをつける。著者、『タイトル』、出版社、出版年、訳者(翻訳の場合)を明記する。

(5) 引用でなくとも、他人から主張やアイディアを借りてきたときには、どこからとってきたのか典拠をつける。やりかたは上記と同じ。

6 web pageの利用法など

小学生の調べ学習ではないので、大学生はwebページ上の情報の信頼性チェックができなくてはいけない。

(1) 日本語版wikipediaの記事は、いまのところかなり信頼性の低いものが多いので、原則として使ってはいけない。本や百科事典等で調べることができない項目であるなどの理由で、やむをえず参照する場合は、①英語版でも調べて信頼性をチェックしてから引用する。②項目名とURLアドレスと参照した日時を明記する。

(2) webページ等の記事で用いてよいものは、官公庁等の公式HP、研究者がアップした論文など、専門的知識をもつ団体・個人が書いており、執筆主体がはっきりしたものに限る。匿名記事を参照してはいけない。参照する場合は著者とURLと参照日時を明記すること。

(3) とはいうものの、図書ならなんでも信頼できるというわけでもない。信頼できる著者、出版社のもの

を使う。というのが信頼できるか…。これはたくさん読んで慣れるしかない。

7 剽窃したら即アウト

・「剽窃」は「ひょうせつ」と読む。英語では、plagiarism（プレイジャリズム）と言う。ようするに「パクリ」、情報のソースを明示せずに他人の言葉やアイデアを自分のものとして利用することである。剽窃はアカデミズムでは重大犯罪だ。大学生は少なくとも大学に在籍している間はアカデミックな世界の住人とみなされる。したがって、剽窃は絶対に行なってはいけないし、もしばれたら単位取り消し等かなりのペナルティを覚悟しなければならない。この授業でも、剽窃したら即、単位なし、というルールで行く。

・どのようなことをすると剽窃したことになるか。悪質な順に並べると以下の通り。

- ①Webにある文章をそのままコピペして自分の文章の一部にする
- ②他人が書いた文章を出典を明記せずに自分の文章の一部にする
- ③他人が書いた文章を、きちんとした引用の作法に従わずに引用する
- ④他人が書いた文章を、一部の語句を変更、語順を変更するなど、ちょっとだけ変えただけで自分の文章の一部にする。たとえば、5にある引用文の場合、「哲学のいろいろな教説とか誤った論証のルールから、人の心に入り込んだイドラがある。これを「劇場のイドラ」という。なぜなら、学説が受け入れられた数だけ、架空的かつ舞台的な世界を作り出す芝居が、生み出され演ぜられたと考えられるからだ」みたいに書き換えても剽窃。じゃ、どのくらい書き換えればよいのか→8を見よ。
- ⑤他人の意見やアイデアを、出典を明記せずに自分の文章の一部にする
- ⑥参照した文献のリストがないレポート

・なんで大学教員は剽窃に厳しく対処しようとするのか

- ①レポート課題を課すねらいは、(i) 問題を理解して、よく考え、妥当な答えを探る、という過程を体験して、それがいかにかたいへんであるかを体得して欲しい、(ii) 文献を探したり他人の見解を要約したりするスキルを身につけて欲しい、(iii) まともな日本語を書けるようになって欲しい、(iv) 表現を選んだり、自分なりの説得力ある例を考えたりすることで、文章表現力を身につけて欲しい、といったところにある。剽窃されると、こうしたことがすべてナンセンスになる。
- ②大学教員はそもそも、新しいことを考え、それを自分の言葉で表現することを仕事にしている。この2つのことはたいへんなことだということを分かっているし、そのために努力している。だから、自分の書いた文章も他人の書いた文章も敬意をもって扱ってほしいと思う。剽窃のような、そのあたりの敬意の欠けた行為にはむちゃくちゃ腹が立つ。

・剽窃は本人のためにならない。それはなぜか。

- ①ほぼ100%ばれてペナルティを受ける（パクリ箇所だけ妙に文章が上手で地の文の下手さとバランスがとれていない。文章のつながり目がおかしい。学生には見えそうにない表現や難しい語彙が含まれている。妙に斬新なアイデアが含まれている。他の学生も同じ箇所をパクリ）。
- ②文章を添削・指導してもらい、文章力を高める機会を自分で台無しにしてしまう。学費もったいない。
- ③とにかく単位さえもらえりゃいいや、バレなきゃラッキー、という態度を続けると卒業時に確実にアホになっている。
- ④以上のことがわかっていない自分のアホさかげんを周囲に知らせてしまう。恥ずかしい。

8 剽窃と言われなくて、他の人の考えを自分の文章中で利用する正当な方法

(1) 原文から変更なしに書き写したものは、とにかく5の引用作法に従う

(2) 原文をそのまま引用するのではないが、他人の書いたものを自分の文章中で使いたいときは、次のようにする。

- ①ベーコンの『ノヴム・オルガヌム』によれば、…と書き出す
- ②そのあと、原文をパラフレーズしたものを書く。ただし、単語を置き換えたり語順を変えたりしただけではだめ。
- ③まず、使いたい原文をよく読む。本を閉じて原文を見ないようにして、自分の言葉でその原文に書かれていた考えを復元する。自分なりに考えた実例や、より分かりやすくするための説明を加えるとベター。最後に、原文と自分の文章を比べて、不正確なことを書いていないか、同じ表現をそのまま使っていないかを確認する。
- ④利用した部分の最後に（ベーコン『ノヴム・オルガヌム』岩波文庫、p.78）といった具合に出典をつけ

る。

●7 情報源の信頼性の吟味をする習慣を身につけさせる

(1) Wikipedia対策のための課題

「Wikipediaってどうよ？」

みなさんがレポートとかですぐに頼りにするWikipedia (<http://ja.wikipedia.org/wiki/>) ですが、項目によって信頼性や記述の妥当性にばらつきがあることが指摘されています。試み自体は素晴らしいと思いますが、あくまでも成長過程にあるものとしてつきあうのがよしい。少なくとも、同じ項目を日本語版と英語版で引いてみるくらいのことはしましょう。さてそこで、スペインの画家Salvador Daliについて日本語版と英語版で引いてみて、それを比較して次の問に答えて下さい。(1) まず、英語版と日本語版の全体的な違いを指摘してください。英語版の方が長いとか、英語版の方が詳しいといった小学生でも書けることは不可。(2) ダリは幼くして死んだ兄がいて、同じ「サルバドール」という名前をつけられたのですが、このことが少年ダリに大きな影響を与えた、と日本語版には書いてあります。英語版にはどう書いてあるのでしょうか。(3) ダリがマドリードのサンフェルナンド美術学校に入学したのは、それぞれいつと書いてありますか。(4) ダリがガラ夫人と結婚したのはいつでしょう。日本語版と英語版ではそれぞれいつ、と書いてありますか。(5) ほかに記述の食い違いを見つけましたか？あれば書いてください。

(2) Wikipedia課題で気づいて欲しいこと

- ・信頼性の低さ←記述のズレ
- ・日本語版には出典がほとんど書かれていないこと
- ・出典は書籍であること

(3) websiteからの引用のためのルールを明示

(4) 安易に「調査」やアンケートをさせない。むしろ、公的な統計や一次文献にあたって、そこから言えることを考えさせる。

●8 分りにくい文章を書き直すトレーニングを行う

(1) まず、わざと分りにくくした例文を用意する

(2) 何を言っているのかを解釈してもらう

(3) それを分かりやすく表現するにはどのようにすればよいかを考え、文章を直す

【例文】ヒップホップは、家や学校や公園でのライブとしてダンスが確固たる地位を確定しつつあった1970年代後半、つまり白人低所得者層を中心的担い手とするディスコ文化がその最盛期を過ぎつつあったものの、まだヒスパニック系住民によるエスニック音楽の移入が本格化する機は熟していなかった、アメリカ都市部での音楽文化のいわば空白期にあって、ニューヨークとりわけブルックリンといった地域に潜在する新しい音楽への要求が高まる中にあって、都市郊外型ダンス音楽として出発した。

●9 論文のテーマ決めにたっぷり時間を使ってつきあう

書く時間より、問いを育てて明確化する時間の方が長く必要

- ・それは問いになっているか
- ・答えの出る問いか
- ・簡単に答えが出てしまう問いではないか
- ・何を言えば答えたことになるのか
- ・サブ問題に分割
- ・「君の答えをひと言で言う？」
- ・その答えのもっともらしさを高めるには何を言わねばならないか

以上を面談しながら指導していく